



2019年3月期 第2四半期決算説明会

2018年11月20日

ユニチカ株式会社

1. 2019年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2019年3月期通期業績予想

- ・2019年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・B種種類株式の一部取得、消却について
- ・今後の重点施策

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

1. 2019年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2019年3月期通期業績予想

- ・2019年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・B種種類株式の一部取得、消却について
- ・今後の重点施策

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

業績の概要

高分子事業の販売が好調に推移したことなどにより増収。

営業利益は、原燃料価格高騰などの影響を受け減益。

為替差益の増加や支払利息の減少などにより、営業外損益はプラスに影響。

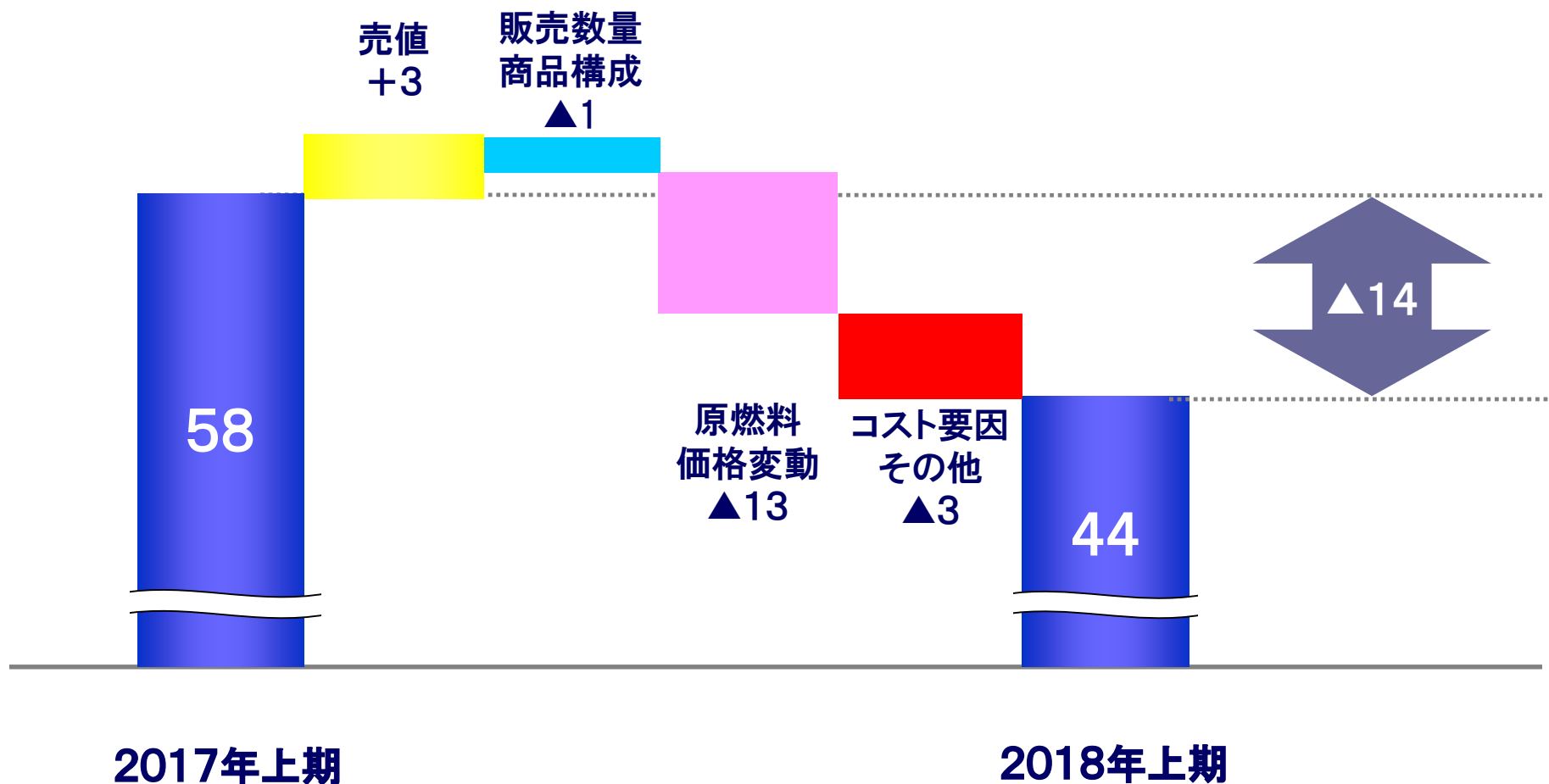
特別損益は横ばい、税金費用は減少したが、四半期純利益は減益。

連結合計 (金額単位:億円)	17年上期 実績	18年上期 実績	前年同期比	
			金額	率
売上高	631	634	+3	+0%
営業利益	58	44	▲14	▲24%
営業利益率	9.2%	7.0%	(▲2.2%)	—
営業外収益	6	7	+1	—
営業外費用	11	9	▲2	—
経常利益	53	43	▲11	▲20%
特別利益	4	4	▲0	—
特別損失	2	3	+0	—
税金等調整前四半期純利益	55	44	▲11	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	48	39	▲9	▲18%

減価償却費	22	21	▲1	▲2%
設備投資	22	33	+11	+49%

営業利益変動要因分析

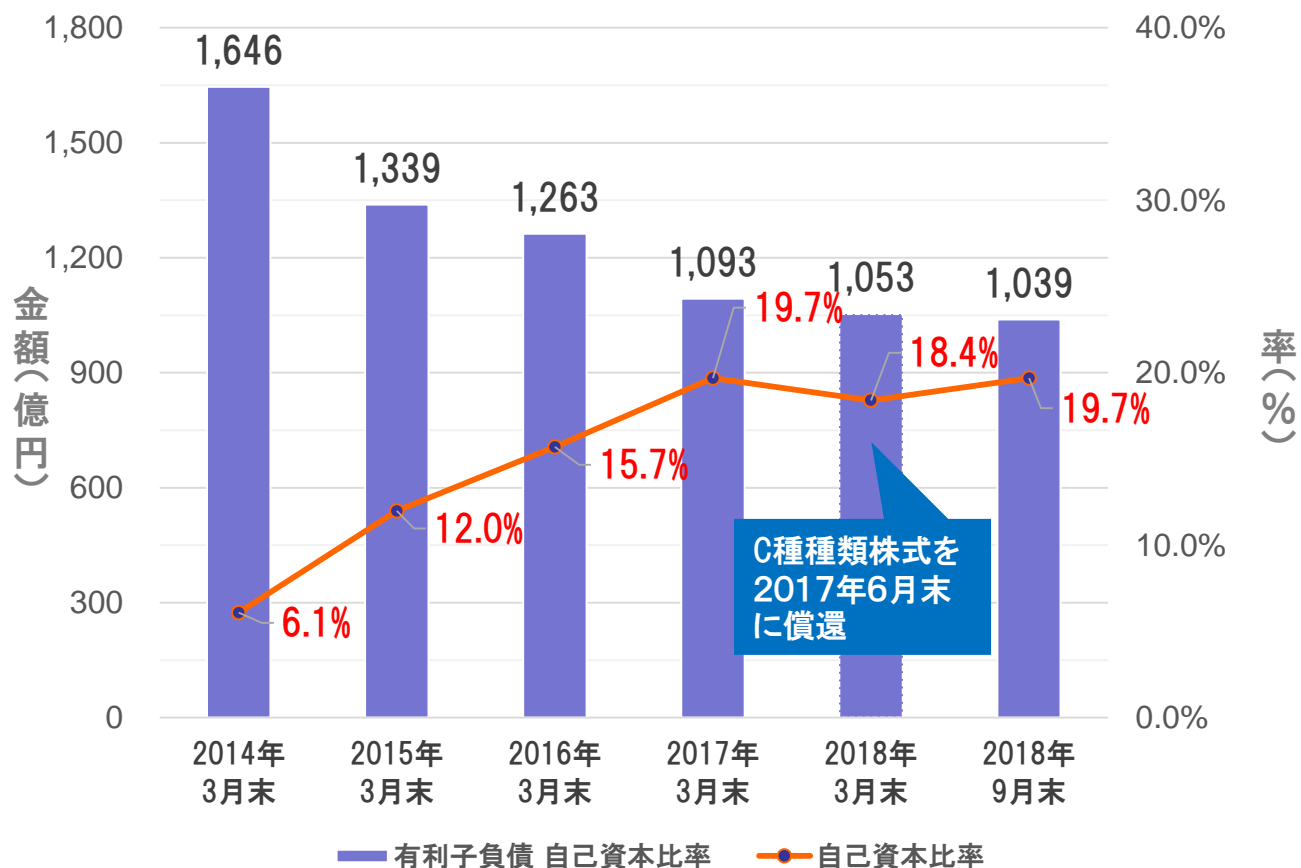
(金額単位: 億円)



資産・負債・純資産

(金額単位:億円)	2018年3月末	2018年9月末	増減
資産合計	2,014	2,026	+12
流動資産	930	933	+3
固定資産	1,085	1,093	+9
負債合計	1,607	1,593	▲14
純資産合計	407	434	+26
株主資本	357	392	+35
その他の包括利益累計額	15	7	▲8
非支配株主持分	36	35	▲1

有利子負債、自己資本比率の推移



財務体質の健全化

■ 有利子負債削減
2018年9月末は1,039億円となり、着実に削減は進んでいる。現預金を差し引いたネット有利子負債は767億円。

■ 自己資本比率
2018年9月末は2018年3月末と比較して1.2ポイント増加し19.7%となった。

1. 2019年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2019年3月期通期業績予想

- ・2019年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・B種種類株式の一部取得、消却について
- ・今後の重点施策

補足資料

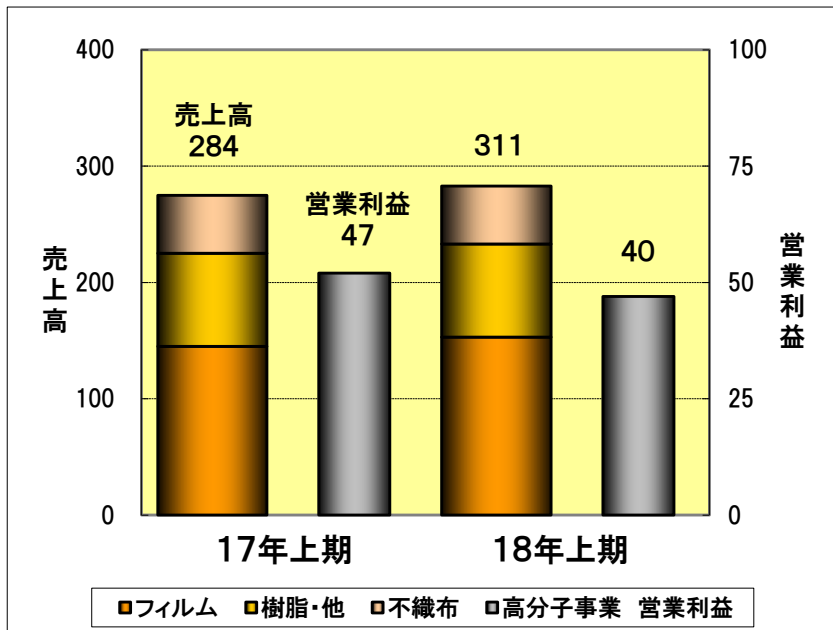
- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

セグメント別 業績の概要

セグメント別 (金額単位:億円)	17年上期 実績	18年上期 実績	前年同期比	
			金額	率
売上高	631	634	+3	+0%
高分子事業	284	311	+27	+10%
機能材事業	62	63	+1	+2%
繊維事業	266	252	▲14	▲5%
その他	19	8	▲12	▲60%
営業利益	58	44	▲14	▲24%
高分子事業	47	40	▲7	▲14%
機能材事業	6	6	▲0	▲2%
繊維事業	6	▲0	▲7	—
その他	▲2	▲2	▲0	—

各事業とも販売は好調も、原燃料価格高騰などにより減益

(金額単位:億円)	17年上期	18年上期	増減
高分子事業 売上高	284	311	+27
フィルム	153	166	+12
樹脂・他	80	87	+7
不織布	50	58	+7
高分子事業 営業利益	47	40	▲7



□フィルム 〔増収・減益〕

◆ 包装分野

猛暑による夏物商品用途の需要が伸長、コンビニエンスストア向け商品の採用アイテム拡大。

バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」が国内外で販売拡大。

◆ 工業分野

好調な半導体市況に支えられ、電気・電子機器分野は堅調に推移。シリコンフリー離型PETフィルム「ユニピール」などの高付加価値品の販売が好調。

□樹脂・他 〔増収・減益〕

◆ ナイロン樹脂

国内外の自動車用途で堅調に推移し販売数量は増加。

◆ 太陽電池用途では、熱可塑性飽和共重合ポリエステル樹脂「エリーテル」は、前期に続き順調。環境配慮型水性エマルジョン「アローベース」も堅調であったが、期後半で需要減少。

◆ ポリアリレート樹脂「Uポリマー」

情報端末機器用途や自動車用途での旺盛な需要を受け、販売は順調に推移。

□不織布 〔増収・減益〕

◆ ポリエステルспанボンド

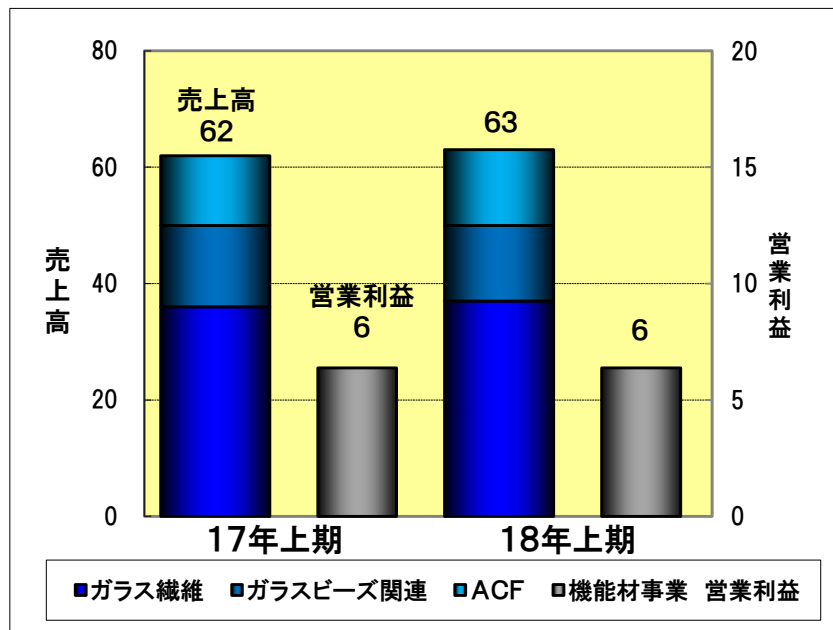
生活資材用途が前期に引き続き好調。その他用途も概ね堅調。

◆ コットンспанレース

国内のスキンケア用品など生活資材用途で引き続き好調に推移。

ガラス繊維、活性炭繊維の各事業が堅調で増収、利益は横ばい

(金額単位:億円)	17年上期	18年上期	増減
機能材事業 売上高	62	63	+1
ガラス繊維	36	37	+1
ガラスビーズ関連	14	13	▲1
活性炭繊維(ACF)	12	13	+1
機能材事業 営業利益	6	6	▲0



□機能材
〔増収・
利益横ばい〕

◆ ガラス繊維・産業資材分野
不燃シートなどの建築用途の販売が好調も、環境関連用途は低調。

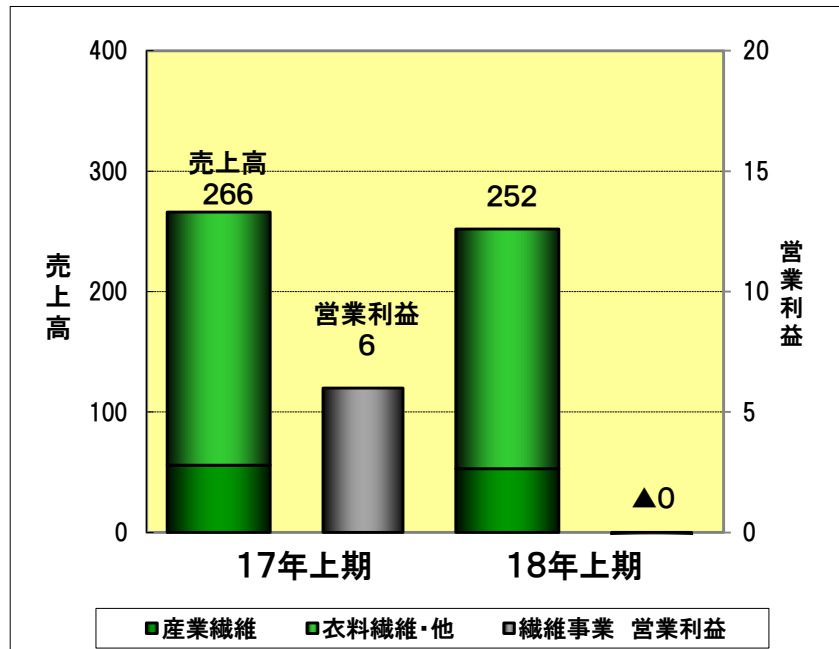
◆ ガラス繊維・電子材料分野
ICクロスは、情報端末機器用途での需要が堅調、超薄物タイプなど高付加価値品の販売が伸長。

◆ ガラスビーズ関連
自動車部品用途、電子部品用途、路面標示用途は堅調に推移、反射材用途は輸出が減少し苦戦。原燃料価格高騰などの影響を受け、収益は減少。

◆ 活性炭繊維(ACF)
主力の浄水器用途やVOC除去用途が引き続き好調に推移。工業用フィルター用途の需要は減少。

原燃料価格高騰、衣料繊維の販売低調により、収益は減少

(金額単位:億円)	17年上期	18年上期	増減
繊維事業 売上高	266	252	▲14
産業繊維	56	53	▲2
衣料繊維・他	210	199	▲12
繊維事業 営業利益	6	▲0	▲7



□ 繊維 〔減収・減益〕

◆ 産業繊維

原燃料価格高騰等の影響を受けて、収益は減少。

短繊維は、生活資材用途で低調。複合繊維などの高付加価値品の販売は堅調に推移。

ポリエステル高強力糸は、土木建築用途などが堅調で販売は増加。

◆ 衣料繊維・他

ユニフォーム分野のワーキング用途、高性能原糸販売は好調を維持。

スポーツ分野、レディス分野は生地販売が低調に推移。

海外向けデニム生地の販売が減少。

1. 2019年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2019年3月期通期業績予想

- ・2019年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・B種種類株式の一部取得、消却について
- ・今後の重点施策

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

原燃料価格高止まりが続くことを見込み通期予想を修正

(金額単位:億円)	2017年度 通期実績	2018年度 通期予想 今回修正	増減	前回(5/11) 発表予想
売上高	1,284	1,315	+31	1,315
営業利益	117	105	▲12	115
経常利益	100	90	▲10	100
親会社株主に帰属 する当期純利益	81	65	▲16	70

2018年度	下期前提
原油 (\$/バレル)	60
為替 (円/\$)	110

◆当社グループは、2017年度を初年度とする3ヵ年計画「“G” round 20 ~ to The Next Stage」を策定し、本中期経営計画に掲げる3つの“G”（Growth、Global、Governance）の実現に努め、更なる飛躍に向けた成長への基盤固めを行う。

セグメント別業績予想

(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な施策
	2017年度 通期実績	2018年度 通期予想	増減	2017年度 通期実績	2018年度 通期予想	増減	
高分子事業	585	640	+55	94	87	▲7	<p>包装フィルムは、原燃料価格等のコスト上昇や為替変動などの環境変化に柔軟に対応し、「エンブレムHG」などの高付加価値品の拡販に注力。工業フィルムは、「ユニアミド」や「ユニピール」などの高機能フィルムの採用アイテム拡大を進める。</p> <p>樹脂は、自動車用途などで高付加価値品の拡販を強化。生産能力の増強体制が整う「Uポリマー」は、用途拡大及び海外展開を強化。不織布は、建築資材関連需要を取り込み、海外では、タスコの独自性の高い製品の採用拡大を更に進める。</p>
機能材事業	125	130	+5	12	13	+1	<p>ガラス繊維は、建築資材用途で拡販を進め、顧客深耕や新規案件の早期取り込みに注力。ICクロスは、超薄物タイプなどの高付加価値品の商品構成を高める。</p> <p>活性炭繊維は、フィルターの高性能化を更に進め、浄水器用途での海外展開を進める。</p>
繊維事業	536	530	▲6	13	8	▲5	<p>産業繊維は、当社の強みであるポリエステル共重合技術などを活かした高付加価値品の開発・拡販を加速。</p> <p>衣料繊維は、原糸・原織開発に注力すると共に、海外サプライチェーンの拡充、再構築により収益改善。</p>
その他	37	15	▲22	▲3	▲3	▲0	耐火スクリーン是正対応がほぼ完了。
合計	1,284	1,315	+31	117	105	▲12	

B種種類株式の一部取得、消却について

		A種種類株式	B種種類株式	C種種類株式
目的		借入金返済に充当し、財務体質の健全化を目指す		成長事業への投資資金
割当先		三菱UFJ銀行	みずほ銀行、 三菱UFJ信託銀行	ジャパン・インダストリアル・ソリューションズ
発行金額		約217億円	約58億円 みずほ銀行:約36億円 三菱UFJ信託銀行:約21億円	100億円
配当率		1.20%	2.374%	6.00%
		(非累積=次期以降へ配当繰越無し)	(累積=次期以降へ配当繰越あり)	
取得条項 (当社の権利)		払込日以降いつでも、種類株式の償還が可能		
取得 (株主の権利) 請求権	金銭	2018/7/31～	2018/7/31～	金銭にて償還済 (2017年6月)
	普通株式	2020/7/31～	2018/7/31～	
最大希薄化率 ※		108.1%	28.6%	

注)本頁は2014年5月26日付公表「第三者割当による種類株式の発行、定款一部変更、資本金、資本準備金及び利益剰余金の額の減少、剰余金の処分並びに金融支援要請に関するお知らせ」を要約したものであり、実際の内容については同公表資料による記載の事項が優先します

※ 転換価格が下限である350円の場合の最大希薄化率

Growth

- バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の拡販
- ナイロンフィルムの非食品用途への展開
- 「ユニアミド」、「ユニピール」など工業分野フィルムの採用拡大
- 「Uポリマー」、「アローベース」などの高機能樹脂の拡販、用途拡大

Global

- 欧米、アセアンでの高機能フィルム及び樹脂の拡販
- 北米マーケティング機能強化
- ポリエステルспанボンドのグローバルシェア拡大
- 活性炭繊維の海外拡販、ポリエステル長繊維の用途拡大

1. 2019年3月期第2四半期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析
- ・資産・負債・純資産
- ・財務体質健全化に向けた推移

2. 各事業セグメントの状況

- ・セグメント別 業績の概要
- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況

3. 2019年3月期通期業績予想

- ・2019年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想
- ・B種種類株式の一部取得、消却について
- ・今後の重点施策

補足資料

- ・主要施策の進捗
- ・国内シェア優位事業
- ・事業構成

成長戦略（高分子セグメント）

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
フィルム	エンブレムアジア製品のグローバル市場拡大		アジア市況の回復の遅れと、3号機の休転による減産もあり、販売数量は減少、売上高は横ばい。	△
	バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」の展開		惣菜やレトルトコーン向けなどに採用が拡大しており、売上高は2.0倍に拡大。	○
	耐熱ポリアミドフィルム「ユニアミド」の拡販		一部用途で需要が縮小したが、新しい用途で展開中。	△
	工業用PETフィルムの拡販		シリコーンフリー離型PETフィルム「ユニピール」は国内外に拡販、売上高は1.2倍に拡大。	○

成長戦略（高分子セグメント）

	施策		進捗状況(前年同期比)	評価
樹脂	「アローベース」の拡販		国内メーカー向け太陽電池用途で堅調も、期後半は需要減少。	△
	「Uポリマー」の拡販		情報端末機器用途に加え、海外向け自動車部品用途で販売が順調に拡大。	○
	高機能性PETの拡販		化粧品ボトル用途などの差別化アイテムの販売は堅調。	○

成長戦略（機能材、繊維セグメント）

	施策		進捗状況	評価
活性炭 繊維 (ACF)	空気浄化用フィルターの拡販による海外市場の開拓		中国を中心にVOC除去フィルターの販売が堅調。	○
ガラス 繊維	産業資材・電材用途(特殊クロス等)の拡販		産業資材分野は建築用途の販売好調。電材用途も、超薄物タイプの販売が増加。	○
ガラス ビーズ	需要拡大が見込まれる高精度ガラスビーズの生産強化・拡販		工業用は自動車用途、電子部品用途、路面標示用途で堅調も、反射材用途は海外向けで苦戦。	△
産業 繊維	ポリエステル 付加価値品の拡販		主要顧客への付加価値品の販売が拡大。	○

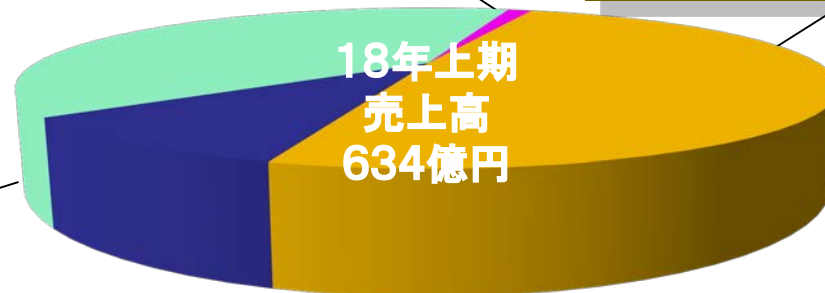
※シェアは当社推定

	製品	国内 シェア	主な用途	当社の強み
高分子	ナイロンフィルム	40% (1位)	食品包装用 (世界シェア 約15%)	同時二軸延伸技術 商品のバリエーション
	ポリエステルспанボンド	35% (1位)	自動車内装、建築、土木資材 農業資材、衛生材料、生活資材	複合繊維化技術
	コットンспанレース	60% (1位)	衛生材料、生活資材、医療資材	天然素材のシート化技術
	ポリアリレート樹脂	当社 独自	自動車部品、電気・精密機器部材	耐熱性・透明性
機能材	ガラスクロス(産業用)	20% (2位)	フィルター素材、FRP用、建築 土木資材	原織・製織技術
	ガラスビーズ	40% (1位)	各種反射材、工業用ビーズ	商品のバリエーション

その他(売上高構成比 1%)

高分子事業(売上高構成比 49%)

- ◆フィルム ナイロンフィルム
ポリエステルフィルム
- ◆樹脂 ナイロン樹脂
ポリエステル樹脂
ポリアリレート樹脂
- ◆不織布 ポリエステルспанボンド
спанレース



繊維事業(売上高構成比 40%)

- ◆産業繊維 ポリエステル高強力糸
ポリエステル短繊維 等
- ◆衣料繊維 ユニフォーム
一般・婦人衣料素材
スポーツ衣料素材 等

機能材事業(売上高構成比 10%)

- ◆ガラス繊維
- ◆ガラスビーズ
- ◆活性炭繊維

ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。